ティラノがドドド　競技イベントで地域の活性化を

大島中の橋（振）

ティラノサウルスが順位を競って駆け抜ける?!――見た目のインパクト大の参加型スポーツイベント「ティラノサウルスレース」を、江東区の大島中の橋商店街振興組合（近藤裕弘理事長・通称＝サンロード中の橋）が10月26日に開催した。

今年で3回目。

レースは、ティラノサウルススーツ（主にポリエステル）を着用して走るだけの競技。アメリカ発祥だが、日本でも「日本ティラノサウルス競技連盟」が中心となり「公式」「公認」レースを町おこしの一環として全国各地で開催している（今回のレースは運営には直接関わらない「公認」）。

サンロード中の橋でも近藤理事長が「外部からの参加者とのつながりが深まるイベントで街や地域を盛り上げたい」と考えていた時にこのレースのことを知り「これだ！」とピンときたという。

レース当日は前日からの雨が残る天候だったが、そんなことは関係ない！　とばかりに208体のティラノサウルスが都立大島小松川公園・自由の広場に集まった。

レースは、競技連盟の規定に沿って「幼獣（小学生まで）」と「成獣（中学生以上）オス」「成獣メス」の3種目で展開。「幼獣」は25㍍、「成獣」はオスもメスも45㍍のコースで、賞品ゲットを目指してティラノたちが熱い戦いを繰り広げた。

ティラノスーツは頭でっかちで足が短い。しかも競技連盟の規定は厳しく、スーツから生身の手足が出てはいけないことから、必然的によちよち走りになってしまう。

その状態で全力疾走するのだからスタート直後やゴール寸前で転んでしまうティラノ、視界が狭いため隣とぶつかってしまうティラノなど、ハプニングも続出し、笑いの絶えないレースとなった。

ティラノレースの後は、商店街で「なかたんと一緒にハロウィンパーティ」。ティラノスーツでの参加も推奨したもので、300㍍の通りを仮装で練り歩くと3カ所でお菓子がもらえたり、2万円分商品券が5本も当たる抽選会が開かれたりで、雨が降り始めても大盛り上がりだった。

今年のイベントを、内藤喜三郎副理事長兼広報・PR担当は「雨の心配がある中であれだけ参加してくれてありがたいと思った。運営側としては、天候に合わせてテントを急ぎ準備するなど慌ただしかったが、無事に終えられてよかった」と振り返りながら「今後も続けて、地域に根差したイベントにしたい」という意欲も語った。

レース前の準備運動としてラジオ体操するティラノたち

接触して転んでしまった仲間を気遣うティラノ

仮装した子どもたちと仲良く歩くティラノ

静岡茶 お振る舞い

「摩利支天」が結ぶ縁

▲開封の儀には鈴木理事長（前列中央）、山崎副理事長（後列左から４人目）らが出席した

▼山崎副理事長の店で希少茶が振る舞われた（商店街提供）

アメ横表通り（振）

台東区のアメ横表通り商店街振興組合（鈴木敏道理事長）は11月2日、約1カ月にわたって開催された秋のイベント「アメ横表フェスティバル」の締めくくりとして、静岡茶の振る舞い（茶会）を行った。

儀式経て、商店街へ

この企画は、公益社団法人静岡県茶業会議所との連携により実現したもの。かつお節店を営む山崎好茂副理事長がコロナ禍に緑茶販売を始めたことを機に交流が始まり、昨秋の試飲販売イベントに続く取り組みとなる。

来街客に振る舞われたのは、静岡茶の希少品種「摩利支（まりし）」。商店街内の寺院・徳大寺に同名の守護神が祭られており、両者の共通点を生かそうと企画された。今年5月には茶業会議所が茶つぼと茶箱を同寺に奉納し、約半年にわたり祈祷（きとう）を受けてきた。

この日は「開封の儀」を執り行い、茶業会議所から商店街へ茶つぼと茶箱が寄贈された。儀式には鈴木理事長をはじめ、服部征夫台東区長や静岡県関係者らが多数参列した。

振る舞い茶を手にした来街客からは「おいしい」「香りが良い」と感想が寄せられ、訪日外国人客も興味深げに口にしていた。日頃から食に携わり、お茶の知識が深い山崎副理事長も「特別なうま味があって味わい深い」と太鼓判を押した。

鈴木理事長は「儀式には区長をはじめ、多くの皆さまにご参列いただき、本当にありがたく思っています。摩利支天のご縁のおかげです」と感謝を述べた。さらに、一連の取り組みを通じて、「開放的な店頭による対面販売」というアメ横表通りの強みを再認識したとも話した。「お客様にお声がけしやすい環境はアメ横ならでは。茶業会議所の方々にもその点が好評でした。年明けには静岡の農家さんとの連携企画も計画中です。来るたびに面白いことをやっていると思ってもらえるよう、商店街の魅力をさらに高めていきたいと思います」

「葛飾まるごとバル」で初のインバウンド対応

葛飾区商連

人気アニメや有名キャラクターゆかりの地を多く抱え、「聖地」として外国人観光客の訪問が増えている葛飾区。葛飾区商店街連合会（染谷光雄会長）ではこの流れを商店街活性化のチャンスと捉え、インバウンド向けの取り組みを強化している。その一環として、区商連主催のバルイベント「葛飾まるごとバル＋（プラス）2025」（10月17日～11月3日）では、初の英語版パンフレットを作成し、通常（日本語）版と併せて展開した。

英語版パンフレット。日本語表記の通常版とは表紙の装丁を一新し、外国人客の目を引くデザインを採用した

サービス追加で〝おもてなし〟

参加店舗は通常版の167店に対し、英語版は50店。区商連は二カ国語の接客マニュアルを用意し、店頭の支援体制も整備した。

特典については、内容を変更。通常版の「実質値引き」を英語版では「サービス追加」に変えた。これは、金銭的なメリットよりも、もてなしを好むとされる外国人客を意識した対応となる。また、本文に日本語を併記し、日本人客も同様のサービスが受けられるよう配慮した。配布方法も工夫し、葛飾区の協力のもと、民泊施設などへの設置を新たに依頼。ターゲットに届く環境を整えた。

人気マンガ「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の舞台である亀有地区では、亀有銀座商店街振興組合（小河原淳一理事長）所属の和菓子店が、〝両さん〟どら焼きとキャンディのセットを販売。サービスとして串だんご1本を付けた。組合副理事長でもある佐藤尚吾店主は、台湾やスペイン等でアニメが放送されており、観光目的地として「新宿、渋谷、そして亀有」が選ばれているケースも多いと話す。「今年オープンした『こち亀記念館』も来館者のうち4割ほどが外国人と聞いています。アプローチの一つとして、このようなバルイベントはぜひ活用したい。初めてなので手探りではありましたが、工夫を凝らして次回につなげたい」と意欲を見せる。

青戸サンロード商店会（加藤裕章会長）所属のたこ焼き店では、たこ焼きをエビせんべいで挟んだ「たこせん」などのセットを販売。サービスとしてオリジナルステッカーを用意した。長尾誠司店主は、周辺に民泊施設が多いことから朝晩に道を行き交う外国人の増加を実感しており、「サービスをプラスする切り口は外国のお客様に対して効果的だったと思います。今回の経験から見えた改善点を次に生かしたい」と語る。

区商連では、「区内には民泊施設が増え、外国人旅行者の姿をよく見かけるようになりました。その一方で対応に戸惑う声も少なくありません。今回のバルイベントをきっかけにインバウンド対応の感覚をつかみ、今後の集客アイデアに生かしてもらえれば」としている。

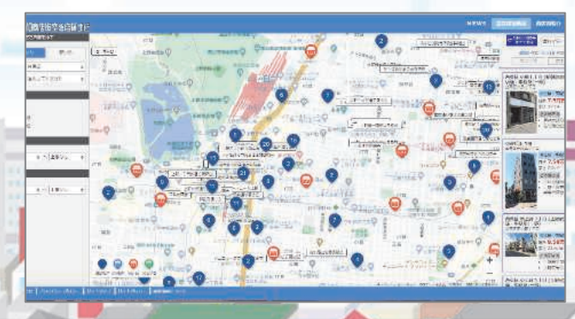
TOSHINREN-information

東京都内の空き店舗情報を取りまとめたポータルサイト『TOKYO商店街空き店舗ナビ』

◆空き店舗や貸事務所を地図上、「地域」「駅」の条件から検索できます
◆物件情報には近隣商店街名が表示されます
◆物件情報は大手不動産業者登録のものなので安心です
◆情報は最新版かつリアルタイムで把握できます

などなど、お役立ち機能アリなうえ、必要な情報満載です
ぜひご利用ください！

◀トップページ
コンテンツメニューが
ひと目でわかる
シンプルレイアウト


◀物件情報ページ
アイコンクリックで
対象物件を表示

問い合わせ：東京都商店街振興組合連合会/03-3542-0231　URL：https://akitenpo.tokyo　スマートフォンはこちら▲